

空は青々

校長室だより 令和7年3月13日 NO. 38 校長 高橋 理香

みやぎ鎮魂の日に寄せて

令和7年3月11日は、「みやぎ鎮魂の日」でした。あの東日本大震災から、14年が経過しました。在校生のほとんどが、震災を知らない世代の今だからこそ、震災経験者の大人が、「自分の命を自分で守る」こと、「3.11を風化させない」ことを、伝え続けることが、我々の「使命」だと考えています。本校では、朝の放送で、防災主任より次の内容の放送を行いました。また、岩出山地域に在住の高橋 義明様から、「防災教育の一助にしてほしい」と、当時の新聞を寄付していただきました。さっそく、校内に展示しております。



1年は365日あり、そのどれもが、誰かの記念日や誕生日、誰かにとっての特別な日です。

今日、3月11日は「みやぎ鎮魂の日」。宮城県民にとって忘れてはならない日です。

みなさんをご存じのとおり、今から14年前の今日、東日本大震災がありました。この震災で多くの人の命が失われました。「みやぎ鎮魂の日」は、この震災の恐怖、悲しみを忘れず、後世に伝えていくための節目の日です。普段通りの生活を送ることのできる今を大切に、今日は少しだけ、自然災害のことや東日本大震災について考える機会をつくってもらえると嬉しいです。

一人一授業

～N-Room 体育の授業から～



本校では、特色の一つとして、別室登校教室 N-Room を開設しているほか、全教員による、年に一回以上の「研究授業」を実施しております。今回の「研究授業」はN-Roomの体育でした。授業を参観した多くの教員が、生徒とともにバドミントンに参加し、最後は真剣に、そして一緒に楽しむ姿がみられました。生徒も教員もともに汗をかき、なごやかな雰囲気の中で行われた、温かい「研究授業」になりました。